

2020年11月新着情報



海外／国際機関で行われている／行われた興味深いイベント／ 取り組み

- **国連(国連人権高等弁務官事務所) : 気候変動と高齢者の人権 : 国連が世界的な諮問を実施**
 - <https://www.age-platform.eu/policy-work/news/climate-change-rights-older-persons-un-unches-global-consultation>
 - <https://www.ohchr.org/EN/Issues/HRAndClimateChange/Pages/RightsOlderPersons.aspx> (諮問 URL)
 - https://www.ohchr.org/Documents/Issues/ClimateChange/RightsOlderPersons/QuestionnaireRightsOlderPersons_EN.pdf (質問票)
 - 気候変動を背景とした高齢者の人権推進・擁護に関する分析調査を行うために、国連人権高等弁務官事務所では、関係者に対する諮問を実施している。国連加盟国、NGO、国連機関、国際機関、学術機関および人権団体が対象で、上記 URL からオンラインにて調査参加可能。回答は英語またはフランス語で 5 ページまでとし、12 月 31 日までにメールで送付すること(受付終了)。
- **国連(WHO) : 高齢者の健康とウェルビーイングに関する初のグローバル・データポータル**
 - <https://www.age-platform.eu/policy-work/news/first-portal-global-data-health-and-well-being-older-people>
 - <http://mca.essensys.ro/data/maternal-newborn-child-adolescent/ageing-data> (WHO ポータル URL)
 - 世界保健機関(WHO)は、世界の高齢者(60歳以上)の健康やウェルビーイングに関するデータを集めたポータルを新たに立ち上げた。ポータルではマップや図表を通じ、様々なトピック(人口推計と予測、高齢者の主な死因、リスク要因、60歳時の平均余命と健康余命、ヘルシーエイジングの推計、定量的指標 10 点に関する国の取り組み、エイジフレンドリーシティ、エイジズム、高齢者への統合ケア、介護)に関して世界のエイジングデータをビジュアル化および分析できる。サイト利用者は、年齢、性別、国ごとにデータを閲覧可能。
- **【コロナ関連】国連(社会経済局) : 国連フォーラム「COVID-19: older people's experiences in real life and data(COVID-19: 高齢者の実体験とデータ)」(10/21)**
 - <https://www.un.org/development/desa/ageing/news/2020/10/world-data-forum/> (同ページよりプログラム全体の動画を閲覧可能)
 - COVID-19 は世界中に困難をもたらし、高齢者を含めたハイリスクグループのウェルビーイングや権利へ特に甚大な影響を及ぼしている。このパンデミックによってまた、社会の隅に置かれた人に関する公式統計で様々な問題が浮き彫りとなった。統計での問題はすなわち、その人たちに及ぼされたパンデミックの健康・社会・経済面での影響を十分理解できないということである。したがって、高齢者と COVID-19 に関するデータシステムについて、何が効果的に機能しており何が問題なのか

分析する必要がある。2020 年世界データフォーラムで国連社会経済局は他の国際機関と協力し、「高齢者の実体験とデータ」に関するセッションを開催した。同セッションでは、パンデミックが高齢者に及ぼす影響について理解するために必要なデータ、データ収集のバリア、データ収集方法の改善に関する取り組みについて取り上げた。



ILC-Japan または ILC-GA メンバーが関わった／関わっている イベント／取り組み

- **英国：バーチャル政策イベント—SWAN：日英における社会的関係の理解（以前 Brian たちと一緒に ILC Japan へいらした方々のプロジェクトかと思えます）**
 - <https://ilcuk.org.uk/virtual-policy-event-swan-understanding-social-relationships-in-japan-and-the-uk/>
 - 2020 年 12 月 9 日にバーチャルで開催されるこのイベントでは、日英共同で行われた SWAN プロジェクト（様々な高齢化社会での社会的関係とウェルビーイング）の結果を議論する。調査結果では、社会的なつながりが高齢期の健康維持で重要な役割を担っていることが示された。しかしそのような関係性は国ごとで異なり、文化的な背景によって形成されている。また社会的関係の特性は年月とともに変化し、新たな指標が有益または必要かもしれない。この点を踏まえて SWAN チームでは、既存のデータセットを調査し、また今後必要な取り組みについて学ぶために日英の専門家や関係者と議論を行った。



海外での興味深い取り組み・ニュース

- **【コロナ関連】米国：コロナ禍で特に高い高齢者の失業率（10/21）**
 - <https://apnews.com/article/virus-outbreak-careers-unemployment-b6a21b4c5b9db93c19bc5ff1336d01be>
 - 最近行われた調査では、過去 50 年間で初めて高齢者の失業率が現役世代よりも高くなったことが示された。この調査によると、55 歳以上の人は 35—54 歳の人と比べて失業するタイミングが早く、再就職するのに時間がかかっていた。AARP 代表者は、この調査結果によってコロナウィルスが高齢就労者に及ぼした影響への懸念が裏打ちされた、と述べる。この調査ではまた、黒人、女性または低学歴の高齢者で失業率が特に高いことが示された。
- **【コロナ関連】米国：コロナへの安全対策実施率は若者よりも高齢者のほうが高い：CDC 報告（10/27）**
 - <https://edition.cnn.com/2020/10/27/health/seniors-covid-pandemic-safety-wellness/index.html>
 - https://www.cdc.gov/mmwr/volumes/69/wr/mm6943e4.htm?s_cid=mm6943e4_w（CDC 報告）
 - アメリカ疾病予防管理センター（CDC）の報告によると、CDC が推奨するコロナ対策の実施率は、

若者よりも高齢者の方が高かった。この調査は 18 歳以上の成人 6,500 名を対象に行われ、4 月、5 月、6 月に手洗いや三密回避などの対策実施について質問した。その結果、どの時点においても 60 歳以上の人が他の年齢層よりも実施率が高かった。

● **【コロナ関連】米国：コロナの隠れた健康危機：主な死因が「孤立」の高齢者（10/28）**

- <https://www.nbcnews.com/news/us-news/hidden-covid-19-health-crisis-elderly-people-are-dying-isolation-n1244853>
- コロナパンデミックによって、全米の介護施設では入居者を守るために面会禁止となったほか、大半のグループ活動や食堂での食事などが中止された。しかしミネソタ州の死亡記録によると、6 月から 9 月までの間に同州では、「社会的孤立」が主な死因として挙げられたケースが少なくとも 10 件あり、その大半は施設入居者だった。社会的孤立が主な死因として挙げられたのは、この 2 年間で皆無だった。コロナウイルスから入居者を守るための取り組みは、同時に入居者の命を奪いかねないものでもあった。

● **オーストラリア：55 歳以上のインターンを受け入れる企業**

- <https://nationalseniors.com.au/news/latest-in-lifestyle/over-55question-this-company-wants-to-give-you-an-internship>
- 映画「マイ・インターン」では、ロバート・デニーロが、オンラインのファッション企業で 70 歳のインターンとして働く姿を描いている。初めは職場に馴染めるか疑問に思われていた彼は、次第にアン・ハサウェイ演じる CEO や同僚たちの信頼を得ていく。このようなストーリーは、ハリウッドの世界でのみ通用するようにも見えるが、オーストラリアのある企業では 55 歳以上の人へ同様のチャンスを提供している。クリエイティブ・エージェンシーの Thinkerbell では最近、このシニア層を対象とした 8 週間の有償インターンシップ「Thrive@55」（Thrive = 成功、繁栄、成長）を実施すると発表した。この取り組みでは、広告業界で広く見られる年齢ギャップの拡大へ対応することを目指している。広告業界では高齢者があまりにも少ない、と同社の代表は述べる。ある調査では、50 歳以上の人を雇用している広告会社がわずか 5%で、従業員の中央年齢は 38 歳であることが示されている。「Thrive@55 を立ち上げることで、広告業界でのエイジズムへ取り組むために自分たちの役割をはたしていることを願っていますし、他の業界でもこのような活動が広がるようなきっかけになってほしいと思います。高齢の方々には、豊かな経験や知識などで貢献できることを、私たちは分かっています。」具体的に同社では、55 歳以上で自らの経験を会社で行かせる人を募集しており、その対象となる経験はクリエイティブのみならず、経理、事務、メディア、戦略など多岐にわたる。



海外／国際機関で最近発表された法律・規則・提言など

● **【コロナ関連】米国：介護施設へのコロナワクチン配布をドラッグストアと政府が共同で実施予定（10/16）**

- <https://www.usatoday.com/story/news/health/2020/10/16/trump-plan-free-coronavirus-vaccine-nursing-homes-cvs-walgreens/3682278001/>

- <https://apnews.com/article/virus-outbreak-nursing-homes-95f0458070eaf9560344cb712253b72f>
- コロナワクチンが承認されたのち、政府は介護施設の入居者および職員へこれを無料で配布する予定であると発表した。この取り組みは、大手ドラッグストア 2 社 (CVS、Walgreens) と連携して実施予定である。ただしこれはあくまでもワクチンが承認されることが前提であり、実現にはまだ時間がかかるとみられる。ナーシングホームの業界団体のうち 1 つはこの取り組みを支持しているが、別の団体は慎重な構えである。このプログラムでは、研修を受けた 2 社のスタッフが各施設へワクチンを届け、接種を行う予定。



海外／国際機関で最近発表された／近日発表される 報告書・ガイドブックなど

- **【コロナ関連】世界各国：COVID and Longer Lives: Combating ageism and creating solutions (COVID と長寿：エイジズムへの闘いと解決策の構築) (Global Future Council on Longevity 等の報告書)**
 - <https://www.weforum.org/platforms/covid-action-platform/live-updates/week-ending-30-october>
 - http://www3.weforum.org/docs/WEF_Combating_ageism_and_creating_solutions_2020.pdf (全文)
 - <https://www.weforum.org/communities/gfc-on-healthy-ageing-and-longevity> (各回対話に関する詳細情報。このページにはカラチさんの写真が大きく掲載されています)
 - Global Future Council on Longevity では AARP や他の団体と共同で、2020 年 6-7 月に「COVID-19 と高齢化社会」に関する対話を 5 回にわたり実施した。この対話には世界中から数百名の人々が参加した。各回の対話詳細については、上記 URL より閲覧可能。これらの対話を基にまとめられた報告と提言が、10 月 28 日に発表された。この報告書では、エイジズムと闘うための解決策や、高齢者の人権を守るようなコロナ対策について提言が行われている。主なテーマは、「コロナ禍におけるエイジズム」、「パンデミックの収束：孤立と孤独」、「在宅・地域ケア」、「介護施設」、「中低所得国で COVID-19 が高齢者に及ぼす影響」である。
- **世界 30 か国：Dementia Innovation Readiness Index 2020: 30 Global Cities (認知症イノベーション整備状況インデックス 2020: 世界 30 都市の分析) (ADI 報告書)**
 - <https://www.alz.co.uk/news/alzheimer-s-disease-international-global-coalition-on-aging-and-lien-foundation-launch-new-dementia>
 - <https://www.alz.co.uk/sites/default/files/pdfs/Dementia%20Innovation%20Readiness%20Index%202020%20-%2030%20Global%20Cities.pdf> (全文)
 - この報告書は、国際アルツハイマー協会 (ADI) が他団体と共同で作成したもので、認知症に関する都市レベルでの整備状況について、東京を含む世界の 30 都市を比較している。5 分野 (戦略とコミットメント、早期発見と診断、ケアへのアクセス、地域の支援、事業環境) の 26 指標に基づいて測定した結果、全体的に最も成績が良かったのはロンドンで、ついでグラスゴーが 2 位につけた。東京は 7 位だった。人口高齢化、そして世界各都市で 60 歳以上人口が大幅に増えることを踏ま

えると、認知症対応における地域のリーダーシップが必要なのは明らかである。しかし今回の分析結果からは、世界各都市が認知症対応のイノベーションを十分活用できていない状況が示された。

- **【コロナ関連】英国:Worst hit: Dementia during coronavirus(最大の被害:コロナ禍における認知症)(英国アルツハイマー協会報告書)**

- <https://www.alzheimer-europe.org/News/COVID-19-situation/Sunday-01-November-2020-Worst-hit-UK-Alzheimer-s-Society-publishes-a-new-report-on-the-impact-of-COVID-19-on-people-with-dementia>
- <https://www.alzheimers.org.uk/sites/default/files/2020-09/Worst-hit-Dementia-during-coronavirus-report.pdf> (全文)
- この報告書では、様々な資料やアルツハイマー協会による調査結果に基づき、コロナウィルスが認知症の人や家族、介護者に及ぼす甚大な影響を浮き彫りにしている。統計局データによると、イングランド、ウェールズおよび北アイルランドでは、3-6月のコロナ関連死のうち認知症の人が1/4以上を占めていた。そのうち40%近くがケアホームで起きており、報告書では、コロナ第1波でケアホームが十分に守られていなかったことを強調している。また認知症の人の超過死亡に関する2020年1-7月のデータを見ると、過去5年間の平均と比較して5,049人多かった。報告書では、死亡だけでなく孤独や孤立問題の悪化も指摘しており、その影響の中には、メンタルヘルスに加えて認知症の症状悪化も含まれる。今後の対応策として報告書では、政府や医療・社会的ケアシステムに対して8点の提言を行っており、たとえば定期的な検査や十分なPPEの提供、明確で一貫性があるガイドライン、インフォーマル介護者の役割認知、リハビリなどが含まれる。また、社会的ケア改革を至急行い、NHSや他の医療システムと統合され、普遍的でパーソンセンタードのケアを無料で提供する必要性を強調している。

- **英国:Helping out: Taking an inclusive approach to engaging older volunteers(高齢ボランティアを引き込む包摂的アプローチ)(Centre for Ageing Better ガイド)**

- <https://www.ageing-better.org.uk/news/new-guide-launched-help-community-organisations-future-proof-their-volunteer-base-wake-covid>
- <https://www.ageing-better.org.uk/sites/default/files/2020-10/Helping-out-taking-inclusive-age-friendly-approach-volunteering-A5.pdf> (全文)
- Centre for Ageing Better は、50歳以上のボランティアを支援し引き込むのに役立つよう、ボランティア組織向けのガイドを新たに発表した。このガイドは、高齢ボランティア支援の新たなアプローチ開発で、これまで試験的に行われた助成金プロジェクトの知見に基づいている。エイジフレンドリーで包摂的なアプローチは、ボランティア組織が将来的に支援基盤を持続および拡大していく上で有益であることが、エビデンス等で示唆されている。ガイドでは、主に5点の行動を推奨している。
 - ◇ つながり、耳を傾ける:個別の状況を理解するための時間をかける
 - ◇ その人にとって大切な事に重点を置く:様々な貢献の能力や方法を検討
 - ◇ その人の強みを活かす:様々な能力やスキルを最大限活用
 - ◇ バリアを除去する:支援策を講じる
 - ◇ 柔軟性を持つ:様々な人や変化する状況に対応した幅広い機会づくり

- **英国: An old age problem? How society shapes and reinforces negative attitudes to ageing(高齢であることは問題なのか?エイジングに対する否定的な態度を社会がどのように形成・助長しているのか)(Centre for Ageing Better 報告書)**
 - <https://www.ageing-better.org.uk/news/uks-damaging-views-ageing-revealed-new-report-analysing-language-used-across-society>
 - <https://www.ageing-better.org.uk/sites/default/files/2020-11/old-age-problem.pdf>
 - この報告書では、エイジングや高齢者について使われる言葉が、否定的な態度を浮かび上がらせている状況について分析している。このような態度により世代間の緊張が高まり、政策にも影響が及びかねない。具体的には政治、メディア、広告、チャリティー部門でエイジングや高齢期がどのように語られているのかを分析している。分析では、エイジングが健康状態の悪化や虚弱、依存などに関連付けて語られていた。政治分野では、人口高齢化はコストのかかる「危機」として語られることが多く、高齢者の公的支援依存が強調される一方で、高齢者による重要な貢献については見落とされがちである。また政治やメディアで高齢者は、「ブーマー対ミレニアル世代」といったように資源獲得競争という枠組みで語られることも多く、高齢者は富裕層として扱われることが多いが、世代内の格差が十分考慮されていないという問題がある。このような高齢者へのイメージは、コロナパンデミックでも顕著に見られ、高齢者は弱者という単一グループとして扱われている。問題解決に向けて、メディア等で高齢者への差別的な態度を防いでいくよう、報告書では呼び掛けている。

- **英国: State of Care 2019/20(ケアの現状 2019/2020)(CQC 年次評価報告)**
 - <https://www.cqc.org.uk/news/releases/covid-19-magnifying-inequalities-%E2%80%9Crisks-turning-fault-lines-chasms%E2%80%9D-%E2%80%93focus-now-must>
 - https://www.cqc.org.uk/sites/default/files/20201016_stateofcare1920_fullreport.pdf (全文)
 - https://www.cqc.org.uk/sites/default/files/20201016_stateofcare1920_easyread.pdf (簡易版)
 - イングランドにおける医療と社会的ケアの現状に関する、ケアの質委員会(CQC)による年次アセスメントでは、過去 1 年間でのケアの質を調査している。調査対象時期には、コロナの影響が始める前の定期検査結果が含まれている。コロナ以前では、ケアの全体的な状況は良かったが、いくつか要改善点も見られた。たとえば NHS での要改善分野は救急ケア、産科、メンタルヘルスなどである。また社会的ケアについて見ると、長期的な財政面での解決策がないため脆弱であり、また投資や人員計画の必要性も指摘された。コロナ以降も上記の問題は残っているが、他の側面で状況が大きく変わった。今後のパンデミック対応について、第 1 波の経験から学ぶ点は多くある。たとえば社会的ケアでは、今回のパンデミックで既存の問題が浮き彫りとなっただけでなく悪化した。すでに脆弱なこの部門は、防護具(PPE)や検査、人員配置などで大きな課題に直面した。また NHSと比較して、支援策の統制が効果的に行われていなかった。報告書では、これらの問題へ至急対応するよう呼び掛けており、たとえば介護職員への新たな対策などが挙げられる。

- **【コロナ関連】英国: A Telling Experience: Understanding the impact of Covid-19 on people who access care and support – a rapid evidence review with recommendations(経験を語る: COVID-19 がケア・支援の利用者に及ぼした影響の理解)**
 - <https://www.thinklocalactpersonal.org.uk/covid-19/tlap-insight-group/TIG-report/>
 - https://www.thinklocalactpersonal.org.uk/_assets/TLAP-TIG-report-on-Covid-19.pdf (全文)

- Think Local Act Personal が発表したこの報告書では、コロナパンデミック第 1 波について、何が上手いき何が難しかったのか、全体のおよび社会的ケアの領域で、Personalization(個別化)という視点から検討した。主な結果は以下の通り。
 - ◇ COVID-19 の全体的な影響・問題点:孤独や孤立およびメンタルヘルスへの影響、経済的なプレッシャー、食料品の買い物、健康面での不安増加など
 - ◇ COVID-19 のケア・支援利用者への影響:全体的なコミュニケーション、PPE や検査、サービス中止によるプレッシャー増加、ケアパッケージの変更など
 - ◇ COVID-19 の特定グループへの影響:ケアホーム入居者・面会者・職員、現金給付利用者、BAME(黒人、アジア人、少数民族)グループ、デジタル面で排除される人々、無償介護者など
 - ◇ 成功事例や学び:柔軟な就労、有意義な活動やつながり、個別化のポテンシャル、コプロダクション、インフォーマルネットワークのポテンシャルなど
 - ◇ 提言:ガイダンスの作成、地方レベルでのコミュニケーション、コプロダクション、ケア法の緩和、格差への対応、ケアホーム入居者や家族、介護者支援デジタル化、更なる研究や学びなど

● 英国:Health equals wealth: The global longevity dividend(健康=富:グローバルな長寿配当)(ILC-UK 報告書)

- <https://ilcuk.org.uk/HealthEqualsWealth/>
- <https://ilcuk.org.uk/wp-content/uploads/2020/10/ILC-Health-equals-wealth-The-global-longevity-dividend.pdf> (全文)
- 現代社会では、高齢者に対する悪いイメージが定着している。政策立案者たちも、高齢化の直接的なコストに固執し、高齢者による大きな貢献を見落としている。その結果、高齢者の社会経済的なポテンシャルが十分発揮できておらず、長寿配当も十分に受けられていない。高齢者が働き、稼ぎ、使い、ボランティア活動を行い、大切な人をケアする機会を、私たちは最大化できるのである。高齢者の社会経済的な影響力はすでに大きい、これを更に拡大できる可能性がある。なぜならば、実現を阻むバリアのいくつかは避けることができ、その中でも最も重要なのが健康問題だからである。予防医療の支出がわずか 0.1%増えただけで、60 歳以上の人達の年間消費が 9%増加し、またボランティア活動が 10 時間増える可能性があると言われている。報告書では、[Ageing Society New Deal](#)(※)(高齢化社会ニューディール)の策定を呼びかけており、この政策は、高齢者の就労・消費・ケア・ボランティア活動を政府がより効果的に支援し、特に予防医療への投資を増やすことを目指している。

(※)Ageing Society New Deal のサイト

<https://ilcuk.org.uk/its-time-for-an-ageing-society-new-deal/>

● 英国:Social care: Funding and workforce (社会的ケア:財源と人材)(下院医療・社会的ケア委員会報告書)

- <https://committees.parliament.uk/work/136/social-care-funding-and-workforce/publications/>
- <https://committees.parliament.uk/publications/3120/documents/29193/default/> (全文)
- この報告書では、社会的ケアの財源および人材の問題についてまとめるとともに、財源に関する長

期的な改革について議論している。改革オプションの一つとして、日本の介護保険も紹介されている。

- オーストラリア:王立委員会研究論文 13: Inside the system: aged care residents' perspectives(システムの内側:施設入居高齢者の視点)及び研究論文 14:Inside the system: home and respite care clients' perspectives(システムの内側:在宅・レスパイトケア利用者の視点)
 - <https://agedcare.royalcommission.gov.au/news-and-media/what-its-people-inside-aged-care-system>
 - <https://agedcare.royalcommission.gov.au/sites/default/files/2020-10/research-paper-13.pdf>
(論文 13 全文)
 - <https://agedcare.royalcommission.gov.au/sites/default/files/2020-10/research-paper-14.pdf>
(論文 14 全文)
 - 国立加齢研究所(NARI)が実施したこの調査では、無作為抽出した1,233人の回答者を対象に、2020年4月中旬から6月にかけて電話インタビューを行った。調査内容は、ケアの質、全体的な生活満足度、生活の質、および懸念や不満である。調査の結果、施設でも在宅でも、自らのケアニーズが常に満たされていると感じていたのはわずか1/4だった。論文13では施設入居者、論文14では在宅サービス利用者について深く掘り下げている。回答者たちは、高齢者ケアについて様々な点で懸念を示した。施設入居者の間で最も多く見られた懸念は職員配置であり、たとえば職員不足、コールボタンを押しても反応がない、高い職員離職率、不十分な研修、入居者ニーズへの理解不足などである。在宅サービス利用者の中で多く見られた懸念事項は経済面と運営面であり、たとえば支払った金額に見合ったメリットが得られない、料金の透明性、サービス調整などが含まれる。これらの懸念事項の多くは、公式な苦情としてもインフォーマルにも提供者側に伝えられていなかった。その理由としては、言っても何も変わらないと思う、問題が小さすぎる、迷惑を掛けたくない、あるいはどこに報告してよいか分からない、といった内容が挙げられた。公式に挙げられた懸念事項のうち、Aged Care Quality and Safety Commission(高齢者ケア質と安全性委員会)で取り上げられたのは1%未満であり、そのうちケア受給者が満足いくよう解決されたのは半数以下だった。